認定医ケースプレゼンテーション抄録

下顎頭のリモデリングを認めた総義歯症例の8年後評価

黒澤 正雄

Eight Years Follow-up of a Complete Denture Case with Remodeling of Condylar Head : A Case Report

Kurosawa Masao

I. 症例の概要

患 者：59歳（初診時），女性。

初 診：平成6年7月5日。

主 訴：顎が痛い（初診時年齢59歳）。

現病歴：10年間使用していた義歯が不適合となり再製作，装着直後から左側顎関節部に強度自発痛と開口障害を認め，当科受診。

現 症：左側顎関節部強度自発痛および開口障害（18mm），さらに左側咬筋浅部自発痛・圧痛，左側外側翼突筋に強度圧痛を認めた。装着義歯は水平的下顎位の設定や咬合接触関係が不適切であった。顎関節規格X線写真およびMRI所見では，左側下顎頭の骨棘（図1a）と左側顎関節円板の復位を伴わない前方転位を認めた。

II. 診断と治療方針

以上から，左側顎関節症IV型と診断し，義歯の下顎位および咬合接触関係の不正が症状発現と関連していると推察し，顎関節部負担軽減を図るため治療義歯を装着，経過観察後新義歯製作へと移行することとした。

III. 治療内容

治療義歯は，使用義歯を即時重合レジンにて適切な咬合接触関係と可及的に両側性平衡咬合が得られるよう調整したものとした¹⁾。治療義歯装着1カ月までは，週1回の間隔で通院させ，毎回再リマウントし均等な咬合接触関係が得られるよう調整を行った。

IV. 経過観察と考察

治療義歯装着3カ月後には疼痛は著しく軽減し，開口量も28mmまで改善した。側方頭部X線写真分析よりRamus inclination, Y-axisが時計回りに回転し，下顎前方偏位の修正が確認でき，顎関節規格X線写真からは骨棘の明白な消退を認めた。8カ月後にはほかの症状もほぼ消失したことから，新義歯を製作した。

新義歯装着後のMRI所見では，左側下顎頭の明白なりモデリングを認めるも（図1b），関節円板前方転位はそのままであった。新義歯装着1年後のMRI所見では，下顎頭形態の新たな経時的変化は認めず（図1c），円板転位もそのままであった。新義歯装着から4年3カ月後，下顎位および咬合接触関係は維持されており，また，顎関節規格X線写真でも新たな変化は認めなかった（図2）。

新義歯装着から7年3カ月後（初診より8年後），咬合関係に変化はなく，症状再発や新たな形態変化は認めない（図3）。顎機能所見では，初診から2年後

岩手医科大学歯学部歯科補綴学第一講座

Department of Removable Prosthodontics, Iwate Medical University, School of Dentistry

図 1 Sagittal MRI : Left temporomandibular joint in centric occlusion
a : At first examined, b : At insertion of new denture, c : At 1 year after insertion of new denture
左側顎関節部の中心咬合位での MRI 所見
a : 初診時, b : 新義歯装着時, c : 新義歯装着 1 年後

図 2 Upper : Occlusal contact relationship at 4 years and 3 months after insertion of new denture
Lower : Lateral transcranial radiography of left TMJ (Left : At insertion of new denture, Right : At 4 years and 3 months after insertion)
上段 : 初診より 5 年後 (義歯装着 4 年 3 カ月後) の咬合接触関係
下段 : 左側顎関節規格 X 線写真 (左 : 初診時, 右 : 装着 4 年 3 カ月後)

の所見と比較し, 限界運動の向上を認め, 咀嚼運動経路もストロークの再現性が増すとともに円滑となり, 咀嚼運動速度も増大するなど機能面でも改善を認めた (図 4)。

Kurita ら²⁾は, 顎関節症 IV 型の自然経過改善率が, 骨変形が重度なほど有意に不良となると報告している。本症例では, 初診時の著明な骨棘が短期間で修復変化を示し, 長期にわたり症状再発を認めないのも適

図 3 Upper : Occlusal contact relationship at 7 years and 3 months after insertion of new denture
Lower : Lateral transcranial radiography of left temporomandibular joint at 7 years and 3 months after insertion of new denture
上段 : 義歯装着 7 年 3 カ月後の咬合接触関係
下段 : 義歯装着 7 年 3 カ月後の左側顎関節規格 X 線写真

図 4 Mandibular movement at 1 year and 3 months after insertion (A), and at 7 years and 3 months (B).
Upper : Frontal view of lateral and open-close movement. Left lower : Frontal view of left masticatory movement. Right lower : Velocity
Sirognathograph analyzing system における下顎運動所見 (A : 装着 1 年 3 カ月後, B : 装着 7 年 3 カ月後)
上段 : 左右側方および開閉口運動の前頭面投影, 下段左 : レーズン左咀嚼時の前頭面投影, 下段右 : 咀嚼運動速度

切な咬合関係の改善と保持によるものと推察した。

文 献

- 1) 黒澤正雄, 虫本栄子, 田中久敏ほか. 総義歯治療により下顎頭のリモデリングを認めた症例. 補綴誌 43 : 963-969, 1999.
- 2) Kurita K, Westesson PL, Yuasa H et al. Natural course of untreated symptomatic temporomandibular joint disc displacement without reduction. J Dent Res 77 : 361-365, 1998.